

はじめに

1 計画策定の背景と目的

現在の高岡の中心市街地の基盤が形成されたのは、それまで荒地であった“関野”と呼ばれる地に、加賀藩2代藩主・前田利長が高岡城と城下町を築いたのがその始まりである。利長は城下建設時にルートを変更した北陸道に沿うかたちで碁盤目状に町割りを行い、上段に城と武家地を配し、中段及び下段に町人地を配した。その際、移住町人には土地の無償提供や地代免除などの特権を与え、職種ごとに居住地を割り振っており、今でも利屋町や白銀町などの町名にその名残を見ることができる。また、上段には荒川用水、中段に庄方用水、下段には川原用水をそれぞれ流すことで掘割とし、町域を明確にするとともに、外部に対しての防御線としている。さらに利長は寺社の配置にも配慮しており、曹洞宗・真言宗の寺を防御上の砦として市街地南端に、また日蓮宗の寺院を同じく北東端側に配し、一方で一向一揆を防ぐ目的から浄土真宗の寺を市街地内部に取り込むなどしている。

その後、高岡城は築城後わずか6年で廃城となり城下町は急速にさびれたが、それを憂慮した3代利常による商工振興策や町民らの努力により高岡は商都として生まれ変わり、大きな発展を遂げることとなった。中でも、恵まれた水陸交通の便を活かした米を中心とする交易は、商都高岡の経済基盤の中心となっており、当時の主要官道であった北陸道沿いには山町筋などの町々が形成され、また舟運を生業とした伏木や木町、陸上交通の拠点であった福岡などが発展した。

このような成り立ちを受け発展してきた高岡には、金工、漆工、菅笠づくりといった歴史と伝統を反映した工芸・民俗技術が受け継がれ、また、高岡御車山祭や伏木曳山祭などの地域固有の祭礼・年中行事が今も営まれている。それらは山町筋や金屋町などの歴史的な町並や歴史的建造物と相まって、「高岡らしい」風情、情緒、たたずまいを醸し出している。

一方、都市化の進展や少子高齢化の進行、人々の生活様式の多様化など社会経済情勢の変化に伴い、これら高岡の良好な市街地環境（歴史的風致）が損なわれつつある。

このようなことから、今後さらに高岡の個性を磨き、魅力を高め、広く市民が高岡の歴史と伝統を再認識し、誇りと愛着を持てるような『歴史都市』を実現するため、高岡市歴史まちづくり計画（正式名称「高岡市歴史的風致維持向上計画」）を策定する。

2 計画策定の経緯
 (1) 計画策定体制

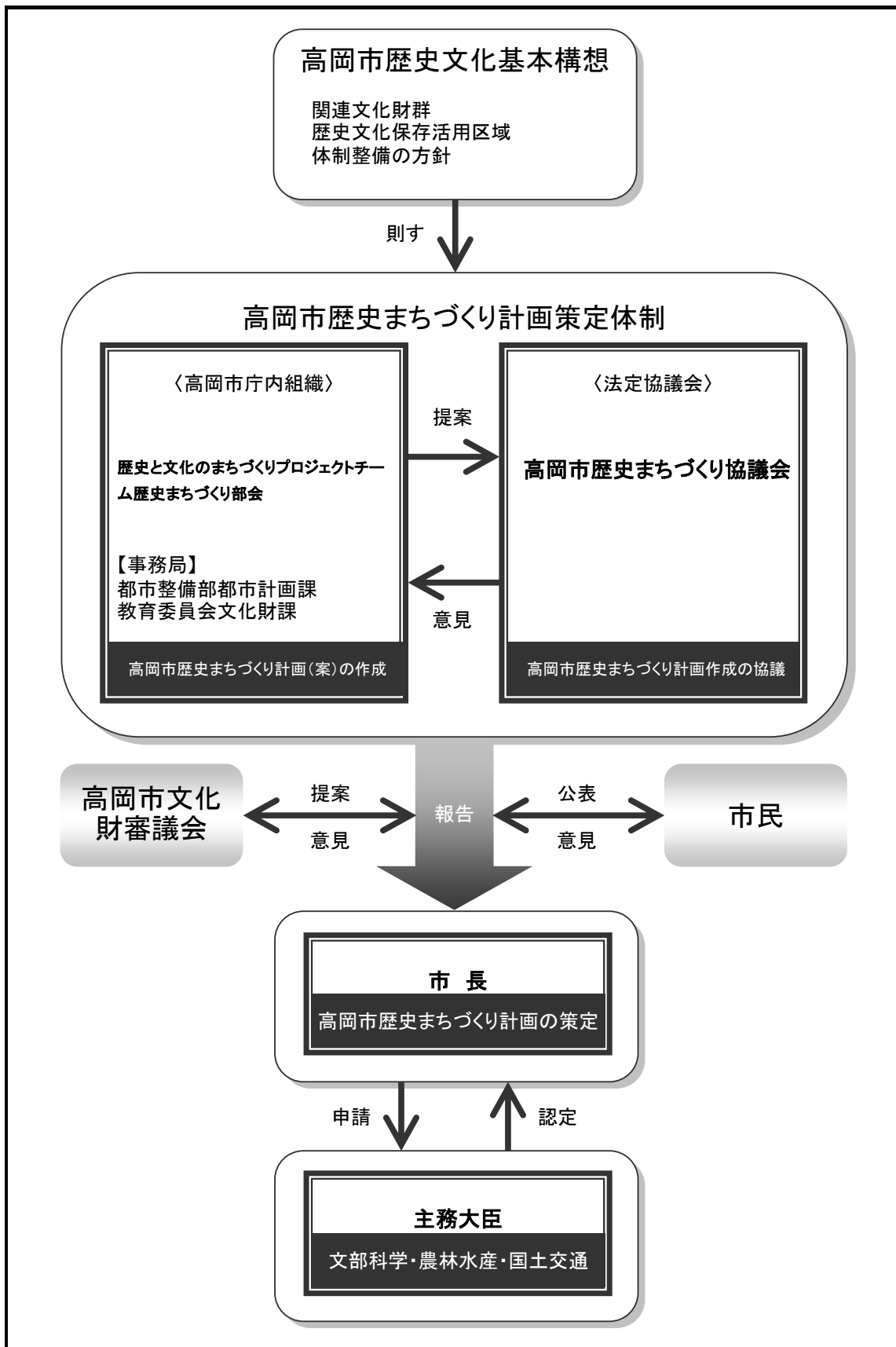


図 計画策定フロー

(2) 計画策定の経過

年月日	内 容
平成 20 年 5 月 23 日	「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律」公布
平成 22 年 1 月 19 日	歴史と文化のまちづくり P T 歴史まちづくり部会（1 回目）
平成 22 年 5 月 26 日	歴史と文化のまちづくり P T 歴史まちづくり部会（2 回目）
平成 22 年 10 月 6 日	第 1 回高岡市歴史まちづくり協議会
平成 22 年 10 月 25 日 ～平成 22 年 11 月 24 日	パブリックコメント（1 回目）
平成 22 年 12 月 20 日	歴史と文化のまちづくり P T 歴史まちづくり部会（3 回目）
平成 22 年 12 月 24 日	第 2 回高岡市歴史まちづくり協議会
平成 23 年 1 月 31 日	高岡市文化財審議会
平成 23 年 2 月 1 日 ～平成 23 年 2 月 14 日	パブリックコメント（2 回目）
平成 23 年 2 月 21 日	歴史と文化のまちづくり P T 歴史まちづくり部会（4 回目）
平成 23 年 2 月 28 日	第 3 回高岡市歴史まちづくり協議会
平成 23 年 3 月 29 日	高岡市歴史まちづくり計画策定
平成 23 年 5 月 6 日	主務大臣（文部科学大臣、農林水産大臣、国土交通大臣）に 認定申請
平成 23 年 6 月 8 日	高岡市歴史的風致維持向上計画の認定
平成 24 年 2 月 1 日 ～平成 24 年 2 月 29 日	パブリックコメント
平成 24 年 2 月 23 日	第 4 回高岡市歴史まちづくり協議会
平成 24 年 3 月 9 日	主務大臣（文部科学大臣、農林水産大臣、国土交通大臣）に 計画の変更の認定申請
平成 24 年 3 月 30 日	計画変更の認定

年月日	内 容
平成 25 年 2 月 1 日 ～平成 25 年 2 月 28 日	パブリックコメント
平成 25 年 2 月 20 日	第 5 回高岡市歴史まちづくり協議会
平成 25 年 3 月 4 日	主務大臣（文部科学大臣、農林水産大臣、国土交通大臣）に 計画の変更の認定申請
平成 25 年 3 月 29 日	計画変更の認定
平成 26 年 2 月 27 日	第 6 回高岡市歴史まちづくり協議会
平成 26 年 3 月 24 日	主務大臣（文部科学大臣、農林水産大臣、国土交通大臣）に 計画の軽微な変更の届出
平成 27 年 2 月 24 日	第 7 回高岡市歴史まちづくり協議会
平成 27 年 3 月 12 日	主務大臣（文部科学大臣、農林水産大臣、国土交通大臣）に 計画の変更の認定申請
平成 27 年 3 月 27 日	計画変更の認定
平成 28 年 2 月 29 日	第 8 回高岡市歴史まちづくり協議会
平成 28 年 3 月 10 日	主務大臣（文部科学大臣、農林水産大臣、国土交通大臣）に 計画の変更の認定申請
平成 28 年 3 月 31 日	計画変更の認定
平成 29 年 3 月 14 日	第 9 回高岡市歴史まちづくり協議会
平成 29 年 3 月 23 日	主務大臣（文部科学大臣、農林水産大臣、国土交通大臣）に 計画の変更の認定申請
平成 29 年 3 月 31 日	計画変更の認定
平成 30 年 2 月 19 日	第 10 回高岡市歴史まちづくり協議会

年月日	内 容
平成 30 年 3 月 15 日	主務大臣（文部科学大臣、農林水産大臣、国土交通大臣） に計画の変更の認定申請
平成 30 年 3 月 29 日	計画変更の認定
平成 31 年 2 月 19 日	第 11 回高岡市歴史まちづくり協議会
平成 31 年 3 月 20 日	主務大臣（文部科学大臣、農林水産大臣、国土交通大臣） に計画の軽微な変更の届出
令和 2 年 2 月 21 日	第 12 回高岡市歴史まちづくり協議会
令和 2 年 3 月 13 日	主務大臣（文部科学大臣、農林水産大臣、国土交通大臣） に計画の軽微な変更の届出

3 計画の実施と推進体制

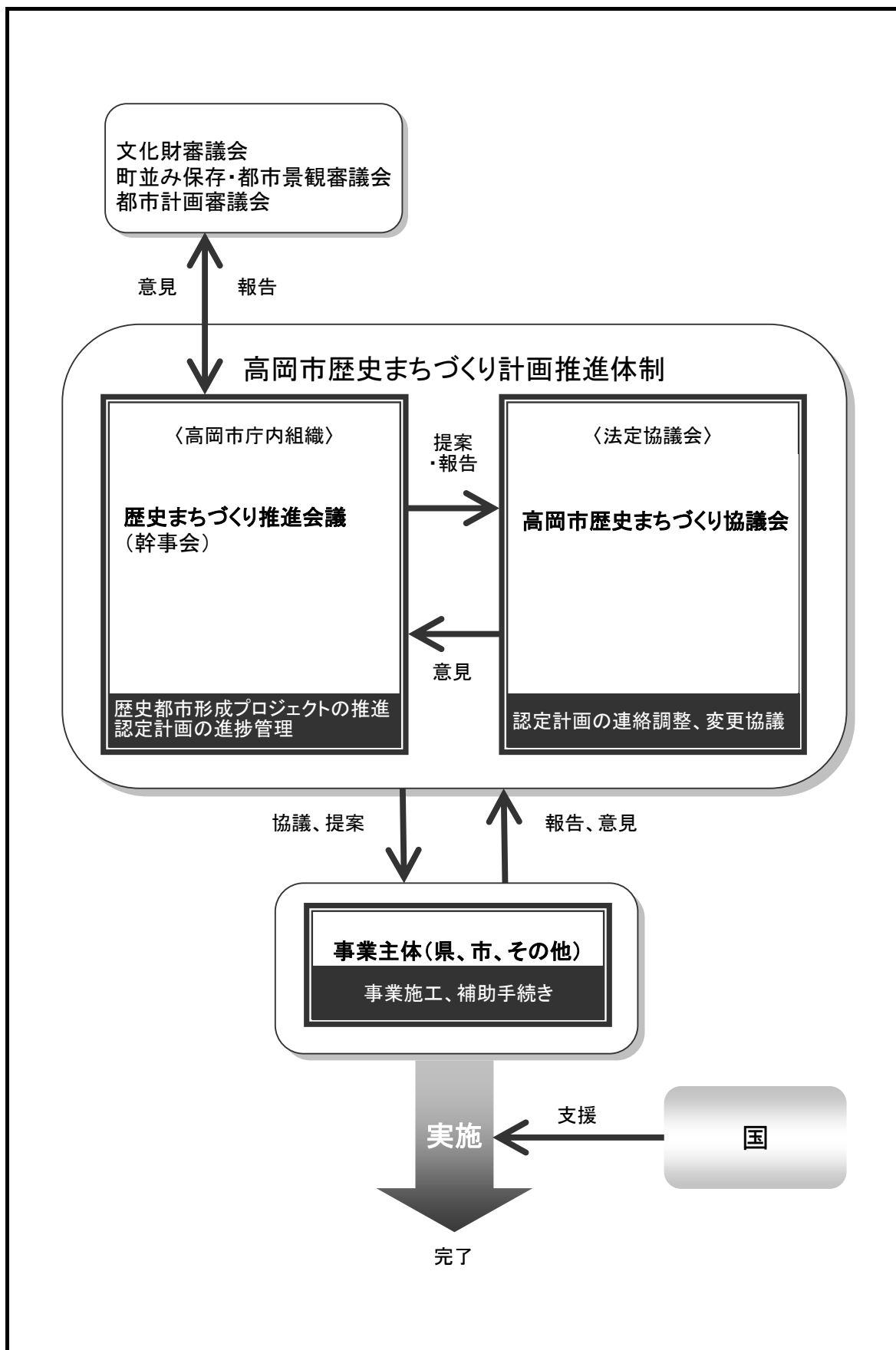


図 実施・推進フロー

高岡市歴史まちづくり協議会委員（計画策定時）

氏名	役職等	専門
上野 幸夫	富山国際職藝学院教授	文化財修復
竺 覚暁	金沢工業大学教授	建築史
長谷川 孝徳	北陸大学教授	日本文化史
蜂谷 俊雄	金沢工業大学教授	地域計画
林 暁	富山大学芸術文化学部教授	美学（漆工芸）
渡辺 康洋	富山大学芸術文化学部教授	国際観光マーケティング
林 正之	富山県都市計画課長	
島田 俊弘	富山県農村振興課長	
木下 晶	富山県教育委員会生涯学習・文化財室長	
西淵 一郎	高岡市産業振興部長	
山田 三博	高岡市建設部長	
澤谷 泰典	高岡市教育委員会理事・教育次長	
加藤 雅俊	高岡市都市整備部長	

4 計画期間

平成 23 年度から令和 2 年度 10 年間